

平成 25 年 12 月 2 日

京口門だより No.2

今年の冬は例年になく寒くなりそうな気配です。すでに変な風邪が流行っており、インフルエンザも流行りそうな様子です。

皆さん漢方医学は風邪の治療を大変得意にしていることをご存じでしょうか。

古代中国の後漢時代に成立したといわれる漢方医学の原典である「傷寒論(しょうかんろん)」は、風邪症候群を含む感染症の治療を詳しく書いてある本です。当時著者の親族が流行性の感染症でつぎつぎと亡くなり、何とかこのような感染症を治療したいという思いで書いたとあります。

今日でいう細菌やウイルスをまとめて外邪とし、われわれの身体に侵入して病気を起こすと考えました。われわれの身体も強い者もいれば、弱い身体の者もいます。外邪に対する反応もさまざまです。同じウイルスに対しても身体の強い人は、激しく反応しますが、身体の弱い人は弱々しい反応しかしません。また強いウイルスには身体は強く傷つきますが、弱いウイルスにはあまり激しい反応をしません。このように病邪の強弱、身体の強弱によってさまざまな症状を起こすことを詳しく仕分けし、それぞれに応じた治療薬(漢方薬)を書きしるしています。ですから風邪症候群でも症状によって、色々な薬が使い分けられています。現代の医学のように一律に鎮痛解熱剤を処方するのとは随分違っていています。要するにきめ細かな治療になっています。

ですから漢方治療では、単に風邪をひいたから薬を処方して下さいということにはならず、いちいちその時の症状を聞いて、どのような状態の風邪かを判断してから薬を処方します。またそれでなければ確実な効き方をしないわけです。葛根湯という漢方薬は有名で、皆様もご存じかとおもいますが、風邪をひいたら葛根湯ということにはなりません。また葛根湯はくず湯とも別物です。

葛根湯はごく風邪の初期にのみ効果があります。熱が出てきたり、咳が出たり、咽が痛くなったりしたらもう効き目はありません。別の漢方薬に変わります。風邪で葛根湯を一週間も飲み続けたというようなことはありえませんし、全く効果がなかったと思います。葛根湯以外にも小柴胡湯、柴胡桂枝湯、桔梗湯、

麻黄細辛附子湯、香蘇散など数多くの風邪薬があります。インフルエンザで高熱が出て苦しい場合にも漢方薬があり、よく効き、早く解熱してゆきます。

風邪をひいた場合は早く症状を言って相談ください。適切なお薬を処方できるはずで、風邪もこじれぬ前に早く治すことが肝心です。

今月中ごろには当漢方京口門診療所のホームページができます。ご覧いただければ幸いです。

